

県政レポート

ほんまに
やらなすかん!

VOL.15



ホームページ

白井 Go! ゆきのり



次世代モビリティサービスの※「BRT」を活用した持続可能な地域交通を!!

全国の地方自治体では、「持続可能な地域公共交通」のあり方が大きな課題となっています。

草津市でも高齢化が進展し、将来の人口減少の深刻さが増す「郊外の既存集落」の住民の移動手段をどうしていくのかという課題があります。まだまだ改善点はありますが、「まめバス」の運行や「デマンドタクシー」での対応などもその一例です。

一方で、JR 南草津駅周辺の市街地のように交通集中による渋滞が慢性化し、バスなども目的地への到着がかなり遅れてしまうことが日常のようになってきているという課題もあります。県の協力を得て様々な実証実験を行っていますが、なかなか解決には至っていないのが現状です。

JR南草津駅は1994年の開業当時、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開設を想定した上で、1日平均乗車人員を14,000人と見込んでいましたが、2000年には想定を上回る16,216人、2014年には倍の28,006人、2017年にはついに30,000人を超え滋賀県内で1番利用者の多い駅となりました。

利用者が多いことは結構なことなのですが、JR南草津



(野洲市専用テストコースでの自動運転・隊列走行実証実験)



(イメージです)

駅に負担が掛かりすぎていることが、前記のような問題を起こしているとも言えます。

今年度改定された滋賀県の「道路アクションプログラム2023」では「大津湖南幹線」の新浜町・エネオスガソリンスタンド交差点から琵琶湖文化公園都市の滋賀医科大学付属病院の横を通って、大津市の平野までつながる「都市計画道路・平野南笠線」の事業化が決定し、一部事業に着手しました。

この事業に合わせて、「草津市南部のまちづくり」と連携し、次世代モビリティサービスの「BRT」を活用した持続可能な地域交通を実現していきたいと提案しています。

つまり、都市計画道路・平野南笠線を、「バス専用レーンを含む6車線」で進め、JR琵琶湖線と交わるころ(南草津駅と瀬田駅の間地点)に「新駅」を開設し、これを起点とした「BRT次世代モビリティサービス」をすすめ、あわせて周辺を、区画整理などの手法を取り入れながら「近未来的なまちづくり」を進めようという考えです。これにより、病院や大学、工場の集積地への人の移動の時間短縮やJR南草津駅の過度な負担軽減を図りながら、現在の交通渋滞の解決にも繋げていきたいと思えます。

ドクターヘリの視察・意見交換



ドクターヘリとは、「医師をいち早く救急現場に連れていくヘリコプター」のこと。機内には初期治療に必要な医療機器や医薬品が装備・搭載しており、基地病院の敷地内等で待機して出動要請に応えます。

救急車の場合、医師は患者が病院に搬送されるまで待つことしかできませんが、ドクターヘリの場合は医師が患者の元に行くため、いち早く治療を開始できることが大きなメリットです。

また、治療を行う医師と看護師を救急現場に派遣するために緊急走行できる緊急自動車を「ドクターカー」といいます。夜間や悪天候時に運航ができないドクターヘリと違い、夜間や悪天候時にも活動ができる点が優れています。

現在ドクターヘリについては、関西広域連合が主体となって、府県域にとらわれない「柔軟な運航体制」の構築を実現していますが、今後の課題の一つはフライトドクターやフライトナースの育成、加えてパイロットの高齢化や人材不足への対応です。万が一の時に備えて、関西広域連合管内では現在、7機のドクターヘリが配置されています。

帰帆島公園の再整備

矢橋帰帆島は、下水処理場のために琵琶湖を埋め立てて造られた人工島です。浄化センターの増設予定地を現在、公園施設として利用しています。公園内には子どもの広場、大はらっぱ広場、せせらぎの池などの無料施設とキャンプ場、多目的グラウンド、プール、テニスコート、グラウンドゴルフ場などの有料施設があり、年間30万人以上が訪れる賑わいの場です。

ところが残念なことに「子どもの広場」にある多くの遊具は老朽化のため、安全に利用することが出来ず「使用禁止」になっています。帰帆島公園に来てくれた子どもたちが安全に楽しめるように、現在、遊具のリニューアルを要望しています。すべての遊具を入れ替えるには、少し時間がかかりますが、今まで以上に充実した公園になるように、しっかりと取り組んでいきます。



白井ゆきのり 県政報告会 秋のつどい 開催のご案内

日時 令和5年11月11日(土) 18:00~
受付 17:00より
場所 ポストンホテル草津 6F
会費 5,000円(当日受付にて)
予約制 お申し込みは、

白井ゆきのり事務所

TEL.077-568-5017(担当松田まで)

定員(220名)になり次第締切とさせていただきます。

※お酒を飲まれる方は、車での来場はご遠慮ください。

講師



祝 農林水産副大臣
武村 展英
衆議院議員



祝 国土交通大臣政務官
小鏑 隆史
参議院議員

※「BRT」とは、バス・ラピッド・トランジット(Bus Rapid Transit)の略で、連節バス、PTPS(公共車両優先システム)、バス専用道、バスレーン等を組み合わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステムです。2021年から2022年にかけて、JR西日本、SoftBankを中心とする企業グループが、滋賀県野洲市にある専用テストコースで、「自動運転・隊列走行実証実験」を終え、2023年11月からは東広島市で「公道を使った実証実験」に入ります。

「徳島県上勝町SDGs未来都市計画」視察



徳島県の山あいに位置し、江戸時代から変わらない棚田や美しい風景が残る上勝町。四国で一番小さな人口規模の町は、2003年に町内から出るごみをゼロにする目標を掲げ、どこよりも早く「ゼロ・ウェイスト宣言」を打ち出しました。町民自ら家庭で出たごみをゴミステーションに持ち込み、徹底した分別をし、ごみを資源へと生まれ変わらせています。その結果、上勝町は現在約81%のリサイクル率を維持しています。

廃棄物ではなく資源であるということを知る

地球環境の持続可能性のために、CO₂を含めた一方的な排出を改め、循環を一番に考えることが必要な時代になりました。サステナブルな循環型社会実現という目標の大きな一歩のために、地域レベルでの取り組みに目を向けましょう。

このまちに生まれ、 心から「良かった!」と思える 滋賀・草津を一緒に!

白井ゆきのり

■プロフィール

- ・昭和37年8月
草津市志那町に生まれる
- ・常盤小学校・松原中学校卒業
- ・県立守山高等学校卒業
- ・京都産業大学経営学部卒業
- ・日本政策学校卒業(第9期生)
- ・滋賀県議会議員



関西広域連合議会

関西広域連合議会8月定例会が徳島県議会議事堂で開催され、「令和4年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件」が継続審査に、「令和5年度関西広域連合一般会計補正予算(第1号)の件」が原案どおり可決されました。

関西広域連合は、平成22年12月の設立以来、日本で最初、唯一の府県域を越える広域連合として、広域防災、広域観光・文化・スポーツ振興、広域産業振興、広域医療、広域環境保全、資格試験・免許等、広域職員研修の計7分野の広域行政と広域にわたる政策の企画調整を推し進めてきました。

関西広域連合が目指すべき関西の将来像

関西広域連合の第5期広域計画では、目指すべき関西の将来像の基本的な考え方として、次の3点を掲げ、関西広域連合が関西の“力”を総合化する「結節点」となって、その実現を目指します。

- (1) 国土の双眼構造を実現し、新次元の分権型社会を先導する関西
- ・中央集権体制を打破するとともに、関西が我が国の経済成長を牽引し、東京一極集中を是正していくことを目指します。
 - ・国の出先機関の移管を粘り強く求めていくとともに、関西の発展のために必要な国の事務・権限の移譲を積極的に求めていきます。

・首都機能のバックアップ構造の実現、首都圏とのインフラ格差是正を進めるための取組などを経済界とも一体となり推進します。

(2) デジタル化を推進し、個性や強み、歴史や文化を活かして、地域全体が発展する関西

- ・社会のデジタル化が進んできた機を捉え、関西全体の発展につなげます。
- ・関西のそれぞれの地域が持つ、他の地域にはない深い歴史・文化・芸術などを活かした魅力を国内外に発信します。
- ・関西に誇りや愛着、自信を持つ人を増やし、地域全体が発展する関西を創造します。

(3) アジア・世界とつながる、新たな価値創造拠点・関西

- ・各分野において、グローバル視点での取組をハード・ソフト両面において積極的に実施します。
- ・世界的イベントを活かし、関西に人・モノ・情報を集結させ、関西から新たな価値を創造し、世界での存在感を高めます。



株いりどり「葉っぱビジネス」の視察

「葉っぱビジネス」とは「つまもの」、つまり日本料理を美しく彩る季節の葉や花、山菜などの栽培・出荷・販売する「農業ビジネス」のことです。徳島県上勝町は、人口が約1,700人、町の面積の86%が山林です。65歳以上の高齢者の割合が50%と人口の半分をしめ、県下でもっとも高齢化比率が高い町です。

この数字だけを見ると、高齢化、過疎化が進む典型的な廃村寸前の町のようにも見えますが、この町は、お年寄りが元気で生き活きと働いており、「世界中探したってこんな楽しい仕事ないですよ」と笑顔が絶えない。こんな楽しい仕事とは、山にある葉っぱや花を200軒の農家が全国の料亭などに出荷し、年間2億5千万円を売り上げる町の一大産業になっているとのこと。その取り組みは、多くのメディアでも取り上げられています。このビジネスモデルは私たちの町でも応用できると思います。



「新・しが割キャンペーン」の抽選申し込み開始

物価高騰の影響を受ける県内の中小・小規模事業者の支援を目的として「買って応援!使ってお得!滋賀を元気に!しが割」キャンペーンがスタートします。

新・しが割キャンペーン(第3弾しが割)については、9月14日から参加店舗を募集しました。

前回からの変更点は大きく4点あります。1点目は割引券の取得方法が先着順ではなく、抽選式となっています。2点目は割引券を分割して利用できるということです。3点目は割引券の有効期間が3週間に延長されたということです。4点目は参加店舗要件が絞られたことです。利用登録および第一回抽選申込を10月16日(月)から開始されたので、ぜひ御登録いただければと思います。



県政世論調査

第56回滋賀県政世論調査の集計結果速報が出ました。3,000人を対象に、郵送とオンライン調査併用で実施し、有効回収率は62.7%でした。滋賀県に「住み続けたい」が76.0%、「誇りがある」は75.0%。滋賀県政への関心については、「関心がある」が60.7%と昨年よりも5ポイント近く減少している状況です。不満度がもっとも高い項目は「公共交通機関の利便性」で、これは13年連続となっています。

また「とても幸せ」を10点満点とした場合の幸せ度は、平均6.63点。力を入れて欲しい県の施策については「医療サービスの充実」・「福祉サービスの充実」・「公共交通の活性化」・「子育て環境の整備」などが上位にきています。県民の声を真摯に受け止め活動に役立てたいと思います。



集計結果は↑
こちらから

郡市別政調会の開催

自民党滋賀県議会議員団では、毎年県内各市町を訪問し、同志の議員や執行部の方々からの要望を聞かせていただく「郡市別政務調査会」を開催しています。

草津市議会議員「草政会」からは、優先度の高いものの内、「草津PAと連携したびわこ文化公園都市周辺エリアの活性化」や「都市計画道路平野南笠線の早期事業着手」、「湖南中部浄化センターにおける中間水路の水質改善」、「交番の増設および警察官の増員」などについて要望を受けました。当日は武村展英衆議院議員、小寺裕雄衆議院議員、小鐘隆史参議院議員も同席して頂き、約1時間半の意見交換をしました。自民党の地方議員と国政が直結しているという強みを生かし、草津市のたくさんある要望に応えられるよう頑張ります!



「近江の茶」茶摘み体験



甲賀市にある「農業技術振興センター 茶業指導所」の茶畑で「やぶきた」の茶摘みと焙煎体験をしました。滋賀県は古くから香り高い銘茶の産地として知られていて、歴史も古く「日本のお茶の発祥地」とされています。西暦805年頃に伝教大師最澄が唐より持ち帰った茶の種子を比叡山麓の日吉大社あたりにまかれたのが始まりとされています。気候や地形がお茶の産地に適した地域が多く、風味豊かで上品な高級煎茶が各地で栽培されています。5月には一番茶、6~7月には二番茶の生産が行われますので、その季節にお茶の産地へ行くと緑豊かな茶畑での収穫風景を見ることができます。

お世話になった茶業指導所では、茶の栽培、土壌肥料、病害虫管理および製茶の各分野において、試験研究に取り組むとともに、現地指導、農業大学の茶専攻生の教育などを行っています。

私が摘んで作ったお茶は「渋くて苦かった!」です。

日本語スピーチ大会

草津市国際交流協会の「第2回 日本語スピーチ大会」が開催され、審査員をさせていただきました。滋賀県にはブラジルやベトナム、中国などから36,158人が来られ、日本人住民とともに暮らし、学び、働いています。

この大会では、母国と異なる環境下で日頃から思うことをテーマにし、各々の価値観や視点に基づいて日本語で発表して頂きました。初級に11名、中上級に6名の外国人が出場し、素晴らしいスピーチで盛り上がりました。みなさん日本語教室で学ぶ生徒さんたちで、学習成果を発表する貴重な経験にもなっています。

受賞された皆さん、おめでとうございます。^^
お互いの理解を深め、ともに生きる住みよい多文化共生の社会づくりを目指すためにも、さまざまな見方・考え方をすることは大切です。聴きにこられた日本人にとっても非常に貴重な機会になっています。

